

人間と
自然資源
第42回

自然と文化が作り出す魅力 高尾山

世界一の登山者数を誇る日本の観光地を支えるもの
古田尚也 | UCN日本リエゾンオフィスコordinator

自然だけでなく文化だけでもない、多面的に楽しめる魅力。
高齢者や幼児から、山歩き上級者まで
満足させる懐の深さ。
多様な主体と制度によって
実現してきた環境保全。
年間300万人が訪れる
高尾山の魅力は、こうした
総合力が作り出したものだ。

撮影 ● 古田尚也



薬王院の四天王門をくぐると、迫力ある大天狗と小天狗の像が参拝客を迎える。

ミシユランに掲載された 大都市近郊の自然の聖地

東京都八王子市にある高尾山は、都心から西へ約50km、最寄り駅である京王線「高尾山口」まで新宿から約50分というアクセスのよさもあり、年間約300万人が訪れる人気の観光スポットとなっている。標高は約600mと山としては高くないが、約1600種という多様な植物が育ち、約1000種の鳥類と約5000種の昆虫が生息するなど、都市近郊にありながら豊かな自然が残されている場所でもある。

特に、2007年（平成19）にミシユランの旅行ガイド本『ミシユラン・グリーンガイド・ジャポン』で富士山と同じく三ツ星の評価で紹介されて以来、外国人の訪問者が数多く訪れるようになった。紅葉の頃などのハイシーズンには、毎年ケーブルカー乗り場に大行列ができるほどの賑わいを見せる。実際、ケーブルカーの高尾山駅を降りると茶屋やみやげ物屋など

が立ち並び、さらには展望レストランやさる園・野草園まであるなど、山というよりも観光地という風情が強い印象を受ける。

しかし、こうした場所を通り過ぎて進んでいくと、徐々に杉並木の鬱蒼とした雲間気が濃くなり、古くからの信仰の場であった霊山の空気が漂ってくる。

樹齢450年といわれる杉の巨木「たこ杉」を過ぎてさらに進んでいくと、浄心門と呼ばれる大きな門が現れる。この浄心門から先は、真言宗智山派に属する薬王院の境内となる。

浄心門から男坂または女坂を経て少し歩くと天然記念物の杉並木が現れてくる。参道の右手には杉苗奉納者の名前が書かれた札がずらりと並び、道は四天王門に達する。この四天王門をくぐれば迫力ある大小の天狗像が参拝者を迎え、その先は仁王門、大本堂、飯縄権現堂、大師堂、奥の院など薬王院の諸堂が立ち並びエリアへと入っていく。



信仰の山としての 高尾山の歴史

高尾山の歴史は、この薬王院の歴史でもある。高尾山薬王院は、奈良時代の744年（天平16）に聖武天皇の勅命により、東国鎮守の祈願寺として、行基によって開山されたと伝えられる。この薬王院の名は、創建当初に本尊として

薬師如来を安置したことに由来するという。

その後、永和年間（1375年代）に京都の醍醐山から高尾山中興の祖といわれる俊源大徳が入山し、不動明王の8000枚の護摩供養を行ったところ、飯縄大権現を感じたと伝えられる。以来、高尾山は薬師如来に加え、飯縄大権現を祀る山岳仏教や修験道根本道場の拠点としても発展を遂げていくことになる。

飯縄大権現とは、信濃国の飯縄山に対する山岳信仰が発祥と考え



1 薬王院の大本堂には開山本尊の薬師如来と中興本尊飯縄大権現が安置されている。2 参道では、杉苗奉納者の名前が書かれた札の列が目玉を引く。この札は毎年書き換えられる。3 タコの足のような太い根を突き出した樹齢450年といわれる杉の巨木「たこ杉」。

られる神仏習合の神である。その姿は、白狐の上に立ち、背には不動明王と同様に火炎を背負い、烏を思わせる鋭いくちばしと大きな翼を備え、手足には蛇が絡みついている。これは、不動明王、カルラ天、ダキ二天、歡喜天、弁財天の五相が合体したものとされ、迫力ある姿が印象的だ。なお、高尾山のもうひとつのシンボルともなっている大小の天狗は、この護摩供養に際して、俊源を手伝ったとされる。

戦国時代、この飯縄大権現は上



富士山を望むことができる高尾山の山頂。北条氏康によって浅間社が勧請されたことで、富士山代参の場所として多くの人が訪れるようになった。

杉謙信や武田信玄など戦国武将の守護神としてあつい信仰を集めたのだという。特に、小田原を拠点とした北条氏康は飯縄大権現に深く帰依するとともに、1560年（永禄3）に薬王院薬師堂修理のために寺領を寄進、さらにその息子の八王子城主・北条氏照も寺領を寄進するなど、薬王院に手厚い庇護を与えた。

富士山信仰の拠点としての 高尾山の発展

戦国時代は、各大名が各地で群雄割拠していたことや街道が未整備であったこともあり、一般の人々が自由に遠方まで往来することが難しかった。こうした中、天文年間（1532〜55）に北条氏康によって高尾山山頂に浅間社が勧請されたことで、富士山への代参の場所として高尾山が多くの人を集めるようになったのだという。

「現在、奥の院の裏に置かれている富士浅間社は、もとは高尾山の山頂にあり、手前・後ろが空いて



4 飯縄権現堂の本殿には本尊飯縄大権現が安置されている。5 現在は奥の院裏に置かれている富士浅間社。

いて富士山が正面に見えるようになっていたと伝えられています」と話すのは、薬王院で修験道を担当する主任の桑沢俊宏さん。

その後、江戸時代に入ると、一般の人々も比較的自由に富士山に行くことができるようになったが、同時に高尾山の蛇滝や琵琶滝滝行をしてから富士山を目指すというルートも確立された。

「江戸時代には、かなりの人が富士山に登る途中に高尾山に登っていたと考えられています。高尾山



1 高尾山には薬王院の表参道である1号路と呼ばれる登山道のほかにも、複数の個性的な登山道が整備されている。写真は6号路の道端に祀られた地藏。2 4号路は、浄心門から北斜面を巻いて山頂直下へ続く。途中の谷には、吊り橋がある。3 ケーブルカーの出発点となっている清滝駅は紅葉の名所でもある。



入ってから夜に滝行を行い、朝ご来光と富士山を拝むという形で行われていたようです。明治以降、こうした高尾山を経由しての富士登拝はいったん途絶えてしまったのですが、13年前からこれを復活させました」と桑沢さんはいう。

現在の富士登拝は5泊6日の行程で行われているという。20名弱の僧侶や修験者が参加し、一般からの参加者は受け付けていない。1日目に柴灯護摩と滝行を行い、高尾山に宿泊し、2日目以降に秋山村、富士吉田を経て富士登山を行うという行程をとるのだという。

このほか、近年一般の人も参加できる行事として相州大山登拝も行われるようになったそうだ。「こうした登拝修行については、北口富士浅間神社、大山阿夫利神社と連携しながら行っています」と桑沢さん。

杉苗の奉納と山の自然保護

高尾山で薬王院に向かう途中、ひととき目を引くのは、杉苗奉納者の名前が書かれた札の列だ。「高尾山では、古くから願い事が成就したお礼として杉苗を奉納するという伝統があります。現在は箱がひとつもないにも関わらず、高尾山でポイ捨てされたごみを見かけることはない。

自然と文化が作り出す高尾山の魅力

年間300万人が訪れる高尾山は、世界で一番多くの登山者が登る山だともいわれる。単に、大都会東京に近いというだけではなく、高尾山にはそれだけの人が引き付ける魅力があるということが確かにか実感できる。

それは、多様な植物相を基盤とした自然だけでなく、薬王院を中心とした1200年以上にわたる信仰によって積み重ねられてきた奥深い歴史や文化にもある。茶屋やレストランでの食事も高尾山の

ケーブルカーのおかげで簡単に山頂までアクセスできる。



における竹木の伐採を厳しく禁じたことや、同様の政策が徳川時代に入っても継承されたことも、高尾山の自然を守ること貢献したといわれている。

明治に入ると、明治政府の神仏分離政策によって高尾山の山林のほとんどは新政府のものとしてしまふ。しかし、これらの山林も皇室所有の御料林とされたことで、結果的に高尾山の豊かな自然は守られることとなった。

こうした豊かな自然環境の保全・活用のために、1967年(昭和42)に明治100年を記念して、大阪府の「明治の森箕面国定公園」と同時に、高尾山一帯が「明治の森高尾国定公園」に指定された。さらに同年には、この高尾山から箕面公園を結ぶ全長1700kmにおよぶ長距離自然歩道「東海自然歩道」が開通するなど、戦後、高尾山の自然の保全と活用は国の自然環境政策の中にも位置づけられるようになった。

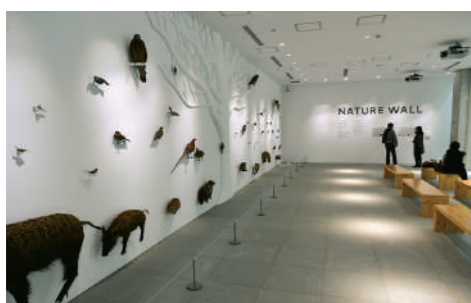
成功したごみゼロ運動

長い歴史の中で自然環境の保全が図られてきた高尾山であるが、過去には色々な問題があったとい

う。その代表はごみ問題だ。

67年に京王線の高尾山口駅が開業すると、気軽に大勢の人が高尾山を訪れることができるようになった。これは地元観光業にとって良いことであったが、一方で高尾山にはごみが溢れるようになってしまった。

そこで、高尾山の観光に関わる関係者で手分けをしてごみ拾いをしたり、ごみ運搬用のトラックを購入して処分するなどの対策をとったが、ごみ問題は一向に解決しなかったのだという。「そこで始めたのが、登山者にごみを持ち帰ってもらうという『ゴミ持ち帰り運動』です。昭和50年代から始まったこの運動では、5月30日をごみゼロの日として登山



高尾山口駅近くの「高尾599ミュージアム」に展示された動物たち。



アクリル樹脂に封入された植物などの展示がある。



高尾山に生息する多様な昆虫を間近に見ることができる標本。

Naoya Furuta

大正大学地域構想研究所教授。東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程単位取得退学。三菱総合研究所を経て、2009年よりIUCN(国際自然保護連合)の日本オフィスにおいて生物多様性に関する国内外の政策展開に従事する。

楽しみの一つだ。ミュージアムやビクターセンターでは高尾山の自然についてじっくりと学ぶこともできる。

ケーブルカーに加え、複数の登山道が整備されていることで、年代や体力を問わず誰もがアクセスできる一方で、より上級者にも楽しめる登山道を備えている。違うルートを歩けば何度訪れても飽きることがない。

自然・文化・歴史といった多面的な要素を持ち、高齢者から山歩き上級者まで楽しめる懐の広さと、多様な主体と制度によって実現してきた環境保全の取り組み。高尾山の魅力は、このような総合力によって高められてきたといえるだろう。